

取扱説明書



COMET®
EX-2

コメットフラッシュメーター**EX-2**

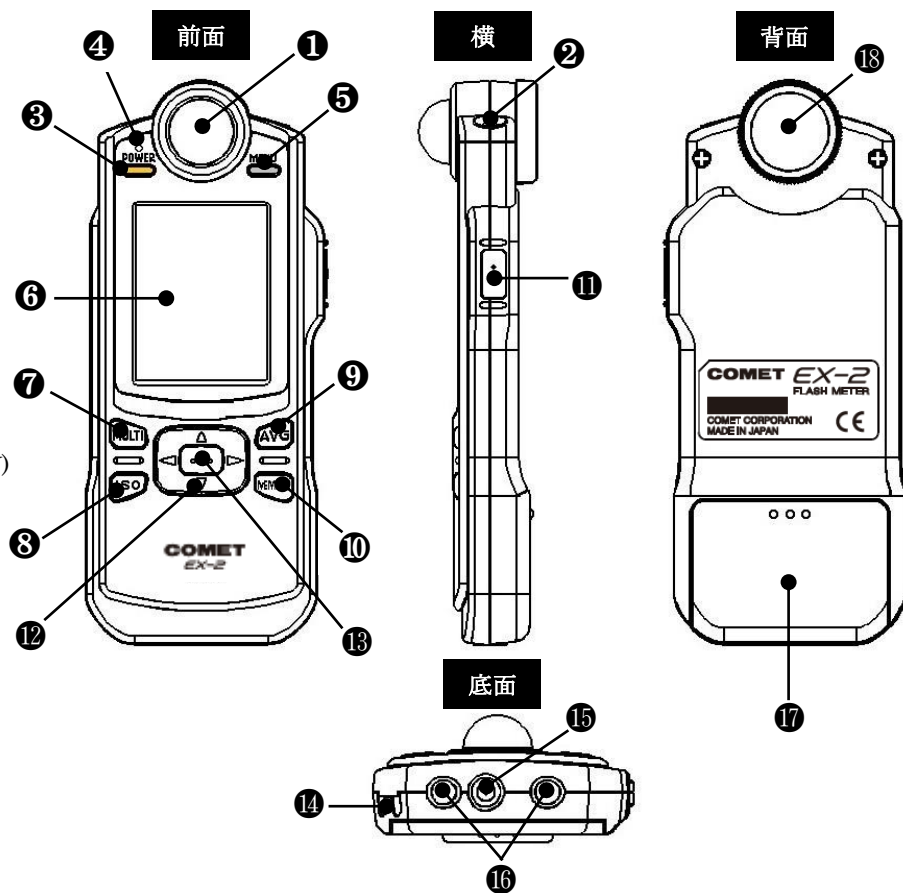
日本製

目次

1. 各部名称	3
2. 測定準備	
2-1 電池の挿入	4
2-2 電源オン	4
2-3 測定モードの設定	5
2-4 セッティング／各種設定	5
2-5 ISO 感度の設定	6
2-6 受光方式の設定(入射光式、反射光式)	7
2-7 シャッター速度 (T) の設定	8
2-8 絞り値 (F) の設定	9
2-9 指示補正值 (PL) の設定	10
3. 測定方法—基本操作	11
3-1 定常光シャッター速度 (T) 優先	11
3-2 定常光絞り値 (F) 優先	12
3-3 定常光 EV モード	13
3-4 定常光 Auto ISO モード	13
3-5 フラッシュ光シャッター速度 (T) 優先	14-15
3-6 フラッシュ光閃光時間測定	16
3-7 フラッシュモード使用時の注意事項	17
4. 測定方法—機能操作	
4-1 測定値のメモリー機能	18
4-2 アベレージ演算機能	19
4-3 モニター機能	20-21
4-4 多数回フラッシュの測定 (マルチモード)	22
5. 主な仕様	23
6. 取扱い上の注意	24
7. アフターサービスについて	24
8. 保証規定	25

1. 各部の名称


- ① 受光部 (入射)
- ② 受光部 (反射)
- ③ 電源ボタン(POWER)
- ④ パイロットランプ
- ⑤ メニューボタン(MENU)
- ⑥ 液晶表示部
- ⑦ マルチボタン(MULTI)
- ⑧ ISO ボタン(ISO)
- ⑨ アベレージボタン(AVG)
- ⑩ メモリーボタン(MEMORY)
- ⑪ 測定ボタン
- ⑫ 十字キー
- ⑬ 決定ボタン
- ⑭ ストラップ掛け
- ⑮ シンクロターミナル
- ⑯ アクセサリー取付部
- ⑰ 電池室
- ⑱ 入反射切り替えつまみ



2. 測定準備

2-1 電池の挿入

電池は単三型乾電池二本使用です。アルカリマンガン型を推奨します。

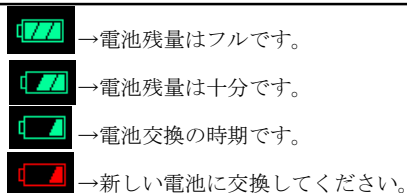
- 電池室⑬の蓋を  の方向に、…部分を軽く押しながら引きます。
- 電池は電池室⑬内の＋表示に合わせて入れてください。
(間違えると作動しません。)
- 電池蓋を取り付けます。



*本製品を長期間使用しない場合には、液漏れに起因する損傷等を防ぐため、電池を外して保管することをお勧めします。

2-2 電源オン

電源ボタン③を押して電源を入れます。電源を入れたときにパイロットランプ④が点灯します。メニューボタン⑤を押すと液晶表示部⑥に MENU 画面が表示されます。【2-3 参照】

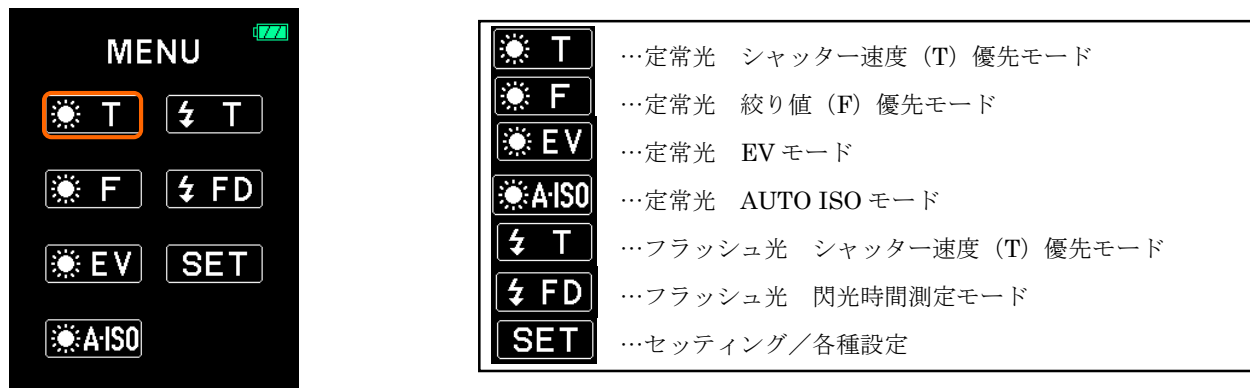


<※この状態で測定しても結果に影響はありません。>

- *電源を切るときは、電源ボタン③を1秒以上長押ししてください。
- *次に電源を入れたときは、最後に使用したモードが表示されます。

2-3 測定モードの設定

十字キー⑫でカーソル移動させ、決定ボタン⑬で使用するモードを決定します。



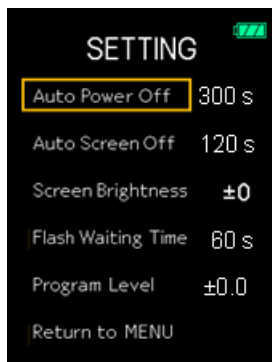
* どの測定モードでも、メニューボタン⑤を1秒以上長押しすると MENU 画面に戻ります。

2-4 セッティング／各種設定 **SET**

十字キー⑫でカーソルを移動させ、設定を変更したい項目を選びます。

決定ボタン⑬を押すとカーソルが数値（右側）に移動し、十字キー⑫の上下（△ / ▽）を押して設定数値を変更します。決定ボタン⑬を押すとカーソルが設定項目（左側）に戻ります。

MENU 画面には、カーソルを”Return to MENU”にあわせてから決定ボタン⑬を押すか、MENU ボタンを1秒以上長押ししてください。



(※工場出荷時の設定値)

Auto Power Off…	<p>節電のため使用後（最後にいずれかのボタン操作後）設定した時間で自動的に電源はオフとなります。</p> <p>設定可能時間：300 秒・120 秒・90 秒・60 秒</p>
Auto Screen Off…	<p>節電のため使用後（最後にいずれかのボタン操作後）設定した時間で自動的に全ての表示が消えます。</p> <p>設定可能時間：120 秒・90 秒・60 秒・30 秒</p> <p><u>＊スクリーン Off 後、いずれのボタンを押しても最後の操作画面に戻ります。</u></p>
Screen Brightness…	<p>－5～＋5 の範囲で画面の明るさを確認しながら設定できます。</p> <p>(1 ステップごと)</p>
Flash Waiting Time…	<p>節電のためフラッシュ光測光時でコードを接続していない場合、待機時間を設定できます。</p> <p>設定可能時間：120 秒・60 秒・30 秒</p>
Program Level…	<p>－0.9～＋0.9 の範囲で指示レベルを補正できます。</p> <p>(0.1 ステップごと)</p>

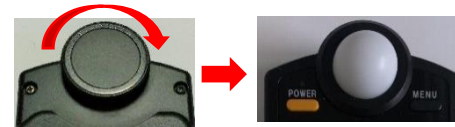
2-5 ISO 感度の設定

- ISO ボタン⑧を押しながら十字キー⑫の上下（△ / ▽）を押して、使用する ISO 感度を設定します。
- 十字キー⑫の上（△）を押すと高感度になり、十字キーの下（▽）を押すと低感度になります。
- 十字キー⑫押し続けると連続して ISO 値が変わります。
- ISO 感度の設定は測定後でも行えます。
- 設定した値はどのモードで使用する場合でも同じです。
- 電源をオフ、電池を交換した後でもその直前に設定した値がメモリーされています。

2-6

受光方式の設定（入射光式、反射光式）

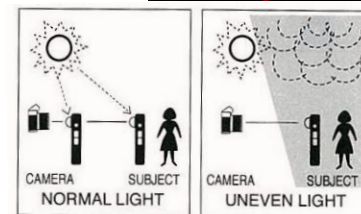
入反射切り替えつまみ⑬で選択します。



入射光式：被写体に当たる光の明るさを直接測る方式

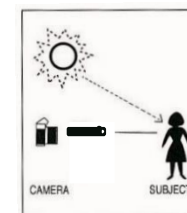
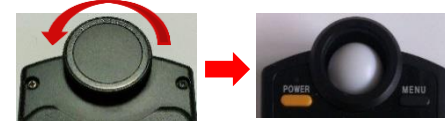
被写体位置で受光球をカメラに向けて測定します。

- * 測定域内の反射率の高いものは明るく、低いものは暗く写り、明暗が忠実に再現されます。
- * 受光球に測定者の影が入らないように注意してください。



反射光式：被写体からカメラに向かって反射してくる光の明るさを測る方式。被写体に向けてカメラの位置から測定します。

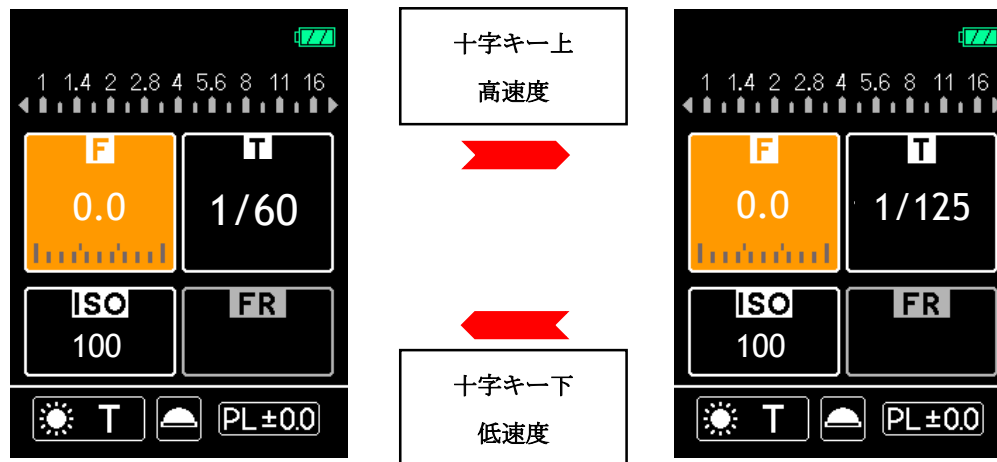
- * 被写体に向けて平均測光をします（受光角は 30° ）。
- * 狭い部分を測りたい場合は、被写体に近づいて測定してください。
- * 反射率が 18% のグレーチャートを用いて測定すると、入射光式で測定したときの値とほぼ一致します。



2-7 シャッター速度 (T) の設定

十字キー⑫の上下 (Δ / ▽) を押してシャッター速度 (T) の設定をします。上 (Δ) を押すと高速度になり、下 (▽) を押すと低速度になります。押し続けると連続してシャッター速度 (T) が変わります。

- * 測定後、シャッター速度 (T) を変えてもそれに対応する絞り値 (F) を表示します。
- * 定常光の場合、60 秒～1/8000 秒の間、25 段階の設定ができます。
- * フラッシュ光の場合、60 秒～1/1000 秒の間、22 段階の設定ができます。

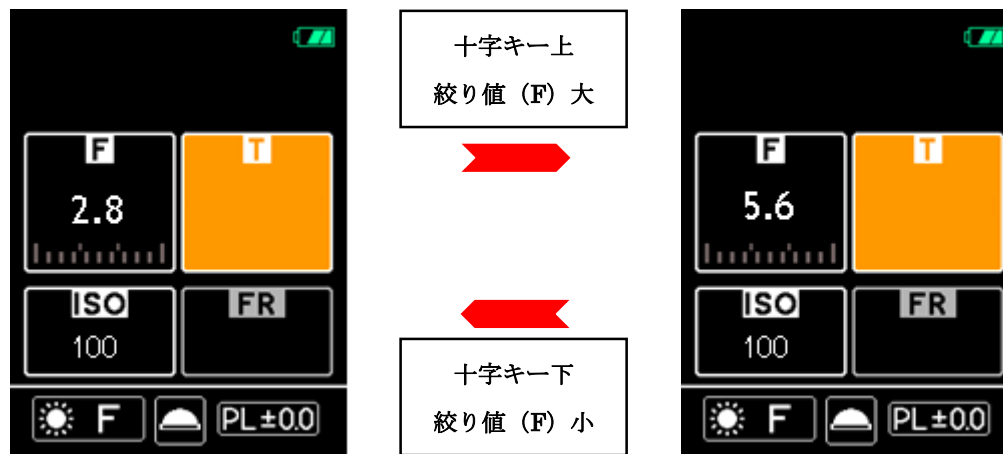


2-8 絞り値 (F) の設定

定常光の絞り値 (F) 優先モード及び定常光 AUTO ISO モードの場合、十字キー⑫の上下 (Δ / ▽) を押して絞り値 (F) の設定をします。上 (Δ) を押すと絞り値 (F) が大きくなり、下 (▽) を押すと絞り値 (F) が小さくなります。押し続けると連続して絞り値 (F) が変わります。

- * 測定後、絞り値 (F) を変えてもそれに対応するシャッター速度 (T) を表示します。
- * 定常光の場合、0.5～90 の間、16 段階の設定ができます。

※フラッシュ光測光での絞り値 (F) の設定は出来ません。



2-9 指示補正值（PL）の設定方法

各モードの測定値は弊社の基準に従って標準的に校正されていますが、 $-0.9 \sim +0.9\text{EV}$ の範囲で指示レベルを好みに応じて変更できます。

- 1) メニューボタン⑤を押し、MENU 画面を表示します。十字キー⑫を押してカーソルを移動させて“SET”を選択、決定ボタン⑬を押します。
- 2) SETTING 画面を表示、十字キー⑫を押してカーソルを移動させて“Program Level”を選択、決定ボタン⑬を押します。【写真 1 参照】
- 3) 決定ボタン⑬を押すと、カーソルが数値に移動するので十字キー⑫の上下（ Δ / ∇ ）を押して補正值を決定します。【写真 2 参照】
- 4) 上（ Δ ）を押すと 0.1 段ずつ値が大きくなり（露出アンダー側）、下（ ∇ ）を押すと小さくなります。（露出オーバー側）
- 5) 十字キー⑫の上下（ Δ / ∇ ）を 1 秒以上押し続けると連続して値が変わります。
- 6) 補正值を決定したら決定ボタン⑬を押すと、カーソルが“Program Level”に戻り、十字キー⑫を使って“Return to Menu”にカーソルをあわせて決定ボタン⑬を押すと MENU 画面に戻ります。若しくは、メニューボタン⑤を 1 秒以上長押しでも MENU 画面へ戻れます。

- 7) 測定画面で指示値が補正されていることを確認します。【写真 3 参照】

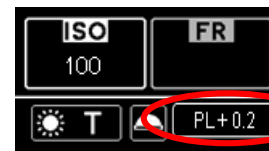
*電源を切っても設定は保存されます。
*指示補正の解除は、設定と同じ操作で補正值を ± 0.0 に設定します。
*補正が設定されると、どのモードで測定しても全て一律に補正されます。
（※閃光時間測定モードを除く。）



【写真 1】



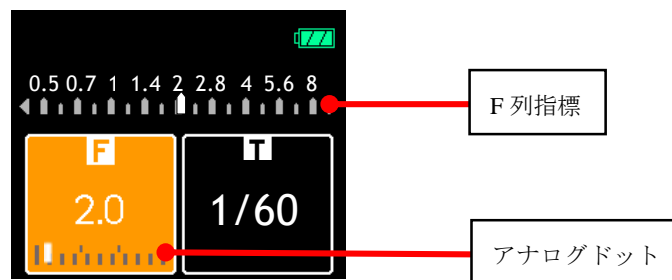
【写真 2】




【写真 3】

3. 測定方法—基本操作

定常光測定の場合は、測定ボタン⑪を押している間、連続的に測定します。測定ボタンを離すとその時の測定値を表示し、固定します。



3-1 定常光の測定：シャッター速度（T）優先モード

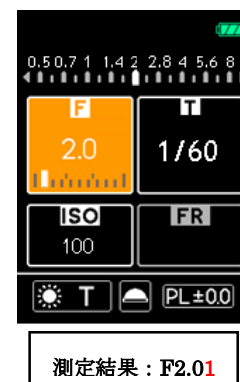
1) MENU 画面で  **T** を選択、決定ボタン⑬を押します。

【2-3 参照】

2) ISO 感度を確認、設定します。【2-5 参照】

3) シャッター速度（T）を設定します。【2-7 参照】

4) 測定ボタン⑪を押して絞り値（F）を測定します。



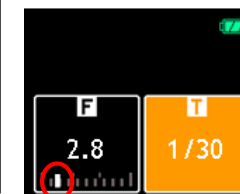
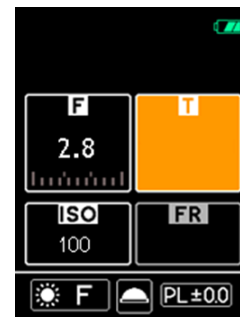
*測定後、ISO 感度及びシャッター速度 (T) の変換により測定値の演算が自動的に行われます。
 *測定範囲を外れた場合は、**Eu** (エラーアンダー)、**Eo** (エラーオーバー) が表示されます。



3-2 定常光の測定：絞り値 (F) 優先モード




- 1) MENU 画面で **F** を選択、決定ボタン を押します。【2-3 参照】
- 2) ISO 感度を確認、設定します。【2-5 参照】
- 3) 絞り値 (F) を設定します。【2-8 参照】
- 4) 測定ボタン を押してシャッター速度 (T) を測定します。

*測定後、ISO 感度及び絞り値 (F) の変換により測定値の演算が自動的に行われます。
 *測定範囲を外れた場合は、**Eu** (エラーアンダー)、**Eo** (エラーオーバー) が表示されます。
 *設定した絞り値 (F) に対して、測定したシャッター速度 (T) が系列上の値と合致しない場合は、絞り値 (F) のアナログドットで表示されます。【写真 4 参照】
 *絞り値 (F) 設定のときに、アナログドットで前の測定値が残っていてもそのまま測定することができますが、入反射切り替えつまみ で入反射を切り替えるとアナログドットの表示はクリアされます。

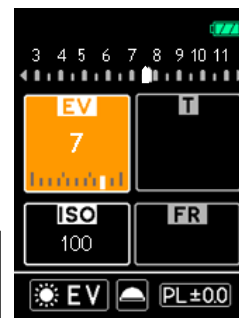


【写真 4】




3-3 定常光の測定：EV モード

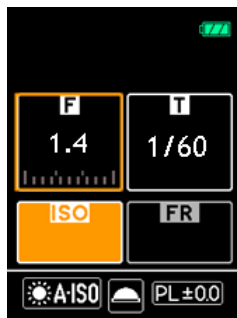
- 1) MENU 画面で  を選択、決定ボタン  を押します。【2-3 参照】
- 2) ISO 感度を確認、設定します。【2-5 参照】
- 3) 測定ボタン  を押して測定します。

*測定値はシャッター速度 (T) に関係なく、EV 値（露光指数）が表示されます。
*測定後、ISO 感度の変換により測定値の演算が自動的に行われます。

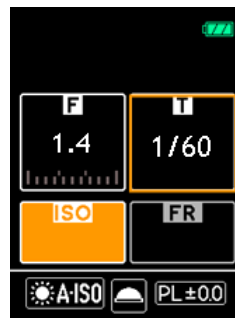


3-4 定常光の測定：オート ISO モード

- 1) MENU 画面で  を選択、決定ボタン  を押す。【2-3 参照】
- 2) 十字キーボタン  の左右 (◀ / ▶) を押すとカーソルが移動しますので、絞り値 (F) かシャッター速度 (T) を選択し、それぞれ設定します。



カーソル左側
絞り値 (F) 選択
(※設定方法は 2-8 参照)



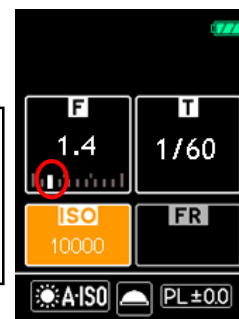
カーソル右側
シャッター速度 (T) 選択
(※設定方法は 2-7 参照)

- 3) 測定ボタン⑪を押して測定します。

*測定後、絞り値 (F) とシャッター速度 (T) の変換により測定値の演算が自動的に行われます。

*設定した絞り値 (F)、シャッター速度 (T) に対して、測定された ISO 感度が系列上の値と合致しない場合は、絞り値 (F) のアナログドットで表示されます。

【写真 5 参照】



【写真 5】

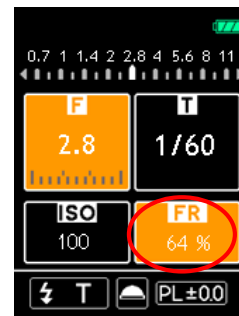
3-5 フラッシュ光の測定：シャッター (T) 優先モード

◎シンクロコードを接続する場合。

- 1) MENU 画面で **⚡ T** を選択、決定ボタン⑬を押します。【2-3 参照】
- 2) ISO 感度を確認、設定します。【2-5 参照】
- 3) シャッター速度 (T) を設定します。【2-7 参照】
- 4) フラッシュユニットのシンクロコードをシンクロターミナル⑮に接続します。
- 5) 測定ボタン⑪を押すとフラッシュが発光して測定します。

(*測定ボタンを押す毎に、フラッシュが発光して測定します。)

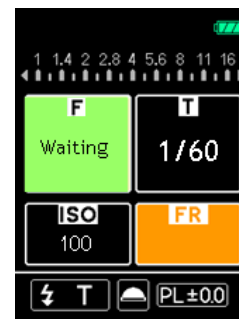
- 6) 絞り値 (F) が表示されます。
- 7) 定常光分を含む全体の光量のうち、フラッシュ光の比率(FR)も同時に表示します。(1%ステップ)



◎シンクロコードを接続しない場合。

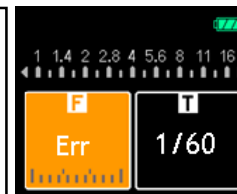
- 1) MENU 画面で **⚡ T** を選択、決定ボタン **13** を押します。【2-3 参照】
- 2) ISO 感度を確認、設定します。【2-5 参照】
- 3) シャッター速度 (T) を設定します。【2-7 参照】
- 4) 測定ボタン **11** を押し、“Waiting” が表示されれば測定準備が完了します。

*もう一度測定ボタン **11** を押すと、“Waiting”が解除されます。
*入反射切り替えつまみ **18** で測光方式を変更しても、“Waiting”が解除されます。
*“Waiting”中でも ISO 感度、シャッター速度 (T) の変更、設定ができます。



- 5) フラッシュ光を感知すると絞り値 (F) が表示されます。
- 6) 定常光分を含む全体の光量のうち、フラッシュ光の比率 (FR) も同時に表示します。

*測定後のリセットは測定ボタン **11** を押してください。4)の状態に戻ります。
*測定範囲を外れた場合は、**Eu** (エラーアンダー)、**Eo** (エラーオーバー) が表示されます。
*“Waiting”の状態が設定した時間【2-4 参照】を超えると、“Err”表示になります。【写真 6 参照】測定を続ける場合にはもう一度測定ボタン **11** を押して、“Waiting”の状態にしてください。



【写真 6】

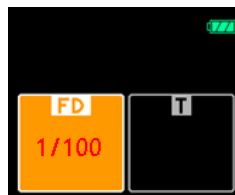
3-6 フラッシュ光の測定：閃光時間測定モード

◎入射方式、反射方式どちらでも測定できます。

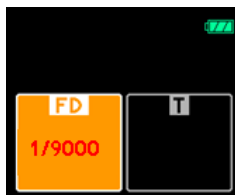
●シンクロコードを接続する場合。

- 1) MENU 画面で **⚡ FD** を選択、決定ボタン¹³を押します。【2-3 参照】
- 2) フラッシュユニットのシンクロコードをシンクロターミナル¹⁵に接続します。
- 3) 測定ボタン¹¹を押すとフラッシュが発光して閃光時間を表示します。

(＊光量アンダー、オーバーの際は赤字で表示されます。)



【光量アンダー】



【光量オーバー】

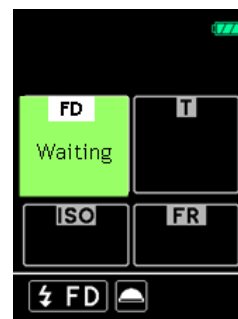
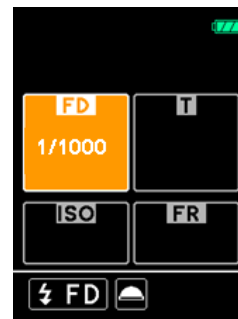
●シンクロコードを接続しない場合。

- 1) MENU 画面で **⚡ FD** を選択、決定ボタン¹³を押します。【2-3 参照】
- 2) 測定ボタン¹¹を押し、“Waiting”が表示されれば測定準備が完了します。

＊もう一度測定ボタン¹¹を押すと、“Waiting”が解除されます。

＊入反射切り替えつまみ¹⁸で測光方式を変更しても、“Waiting”が解除されます。

- 3) ストロボを発光させ、フラッシュ光を感知すると閃光時間が表示されます。



3-7 フラッシュモード使用時の注意事項

- ① 測定値はシンクロコードを接続するとき、接続しないとき、共に周囲光（定常光）を含む絞り値（F）で表示します。**【※閃光時間測定モードを除く】**
- ② 測定後に ISO 値を変更するとそれに対応した絞り値（F）を表示します。**【※閃光時間測定モードを除く】**
- ③ シャッター速度(T) の設定は、使用するカメラのフラッシュ同調速度範囲内であることが必要です。
- ④ シンクロコードをシンクロターミナル**15**に接続するとき、フラッシュユニットの電源がオンになっていると発光することがありますので注意してください。
- ⑤ シンクロコードとシンクロターミナル**15**の電氣的接触が不完全な場合などで、測定ボタン**11**を押しても発光しないときには、“Waiting”の表示が出ます。このようなときには、再度測定ボタン**11**を押して“Waiting”の状態を解除し、シンクロコードの接続を確認してください。
- ⑥ ラピッドスタート型蛍光灯や特殊な照明のもとでは、その光をフラッシュ光と誤認して測定してしまうことがありますので、このようなときはシンクロコードを接続してお使いください。
- ⑦ ボタンを操作しても表示が固定された状態となることがありますが、その場合は、一旦電池を外し15 秒以上待ってから再度電池を装填してください。正常な作動をします。
- ⑧ シンクロコードを接続しない場合、周囲が明るい場所で小光量のフラッシュを発光させたとき、光を感知しない場合がありますので、その場合はシンクロコードを接続して測定してください。
- ⑨ 極端にトリガー電圧が低いフラッシュ等ではシンクロコードを接続時には発光しないことがありますので、その場合はシンクロコードを接続しないでお使いください。

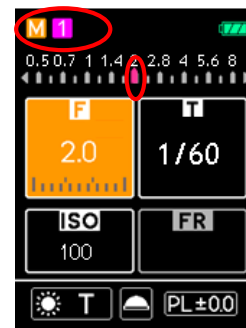
4. 測定方法—機能操作

4-1 測定値のメモリー機能

《使用できるモード：定常光シャッター速度 (T) 優先モード、定常光 EV モード、フラッシュ光シャッター速度 (T) 優先モード》

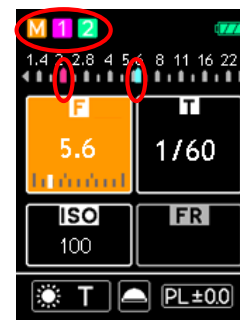
- a) 測定後、メモリーボタン⑩を押すと、測定値が F 列指標にドット表示され、さらに“M1”と表示されます。

＊この時に ISO 値、シャッター速度 (T) を変更すると、それに対応した測定結果が表示され、F 列指標表示のドットも移動します。



定常光シャッター速度 (T) 優先モードのメモリーが、1 つされた状態

- b) メモリーは測定毎 1 回ずつ 3 回まで可能です。
- c) メモリーが既に 3 つあるときには、その後の測定値をメモリーすると“M1”に入れ替わってメモリーされます。
- d) メモリーの解除は、メモリーボタン⑩を 1 秒以上長押しして下さい。メモリーが解除されるとともに、測定数値もリセットされます。
- e) 入反射切り替えつまみ⑬で測光方式を切り替えても、メモリー、測定数値はリセットされます。



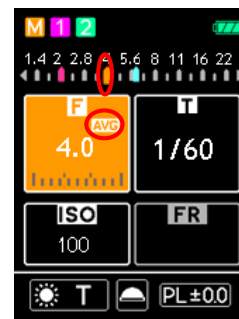
定常光シャッター速度 (T) 優先モードのメモリーが、2 つされた状態

4-2 アベレージ演算機能

撮影する画面内に明るさの差がある場合などに、平均的な露出値を簡単に算出します。

《使用できるモード：定常光シャッター速度 (T) 優先モード、定常光 EV モード、フラッシュ光シャッター速度 (T) 優先モード》

- 2つ（または3つ）の測定値をメモリーします。【4-1 参照】
- アベレージボタン⑨を押します。
- 2つ（または3つ）の測定値のアベレージ（平均値）が表示され、さらに絞り値 (F) 表示枠の中に“AVG”のマークが表示されます。F 列指標にもドット表示されます。
- アベレージの解除は、もう一度アベレージボタン⑨を押します。



定常光シャッター速度 (T) 優先モードのメモリーが、2つされた状態で、アベレージ（平均値）を測定

*このときメモリー値はそのまま残ります。
*メモリーボタン⑩を1秒以上長押しした場合、アベレージ（平均値）が解除されるとともに、メモリー値、測定数値もリセットされます。
*また入反射切り替えつまみ⑬で測光方式を切り替えてもリセットされます。
*Auto Screen Off、或は Auto Power Off で画面が消えてもメモリー値、アベレージ（平均値）は保存されていますが、電源ボタン③を使い電源をオフにした場合には、全ての測定値がリセットされます。

4-3 モニター機能

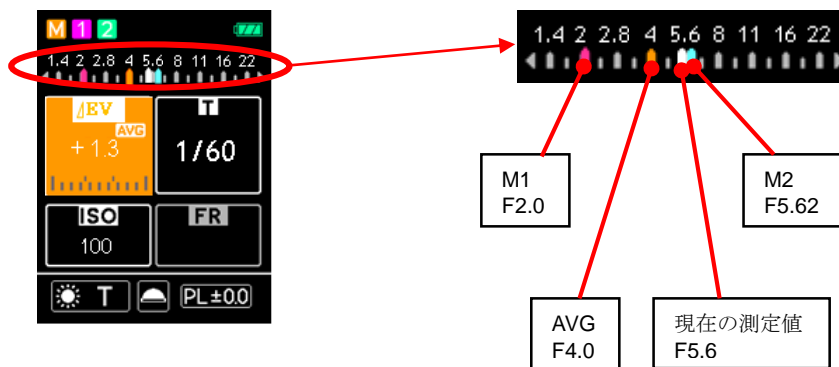
平均値を求めたその後、新たに測定した測光値との差を“ ΔEV ”で表示します。

《使用できるモード：定常光シャッター速度 (T) 優先モード、定常光 EV モード、フラッシュ光シャッター速度 (T) 優先モード》

- a) 2点（または3点）を測定後、メモリーし、アベレージ（平均値）を出します。【4-1, 4-2 参照】

*定常光の場合

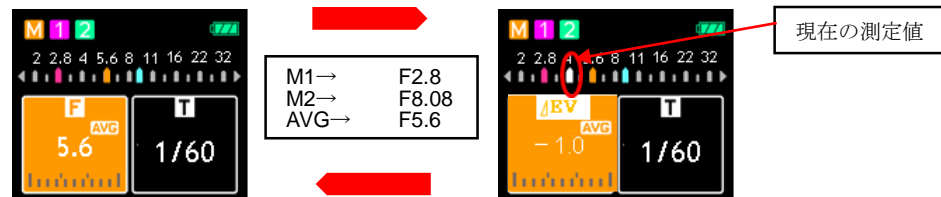
- b) 測定ボタン⑪を押している間連続して測定を行い、その測定値と平均値との差を“ ΔEV ”で表示します。測定ボタン⑪を離すと、a) のアベレージ（平均値）表示に戻ります。



＊フラッシュ光の場合

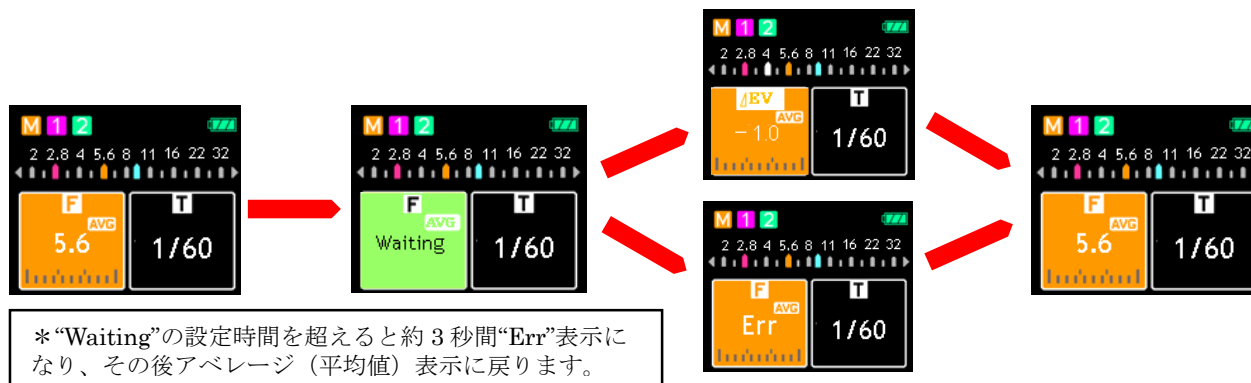
●コード接続時

- b) 測定ボタン①を押してストロボユニットを発光させ、測定ボタン①を押している間は、アベレージ（平均値）との差が“ ΔEV ”で表示されます。測定ボタン①を離すと、a) のアベレージ（平均値）表示に戻ります。



●コード接続なし

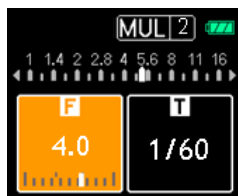
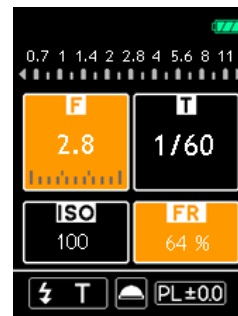
- b) 測定ボタン①を押して“Waiting”表示にし、フラッシュ光を感知すると約3秒間アベレージ（平均値）との差が“ ΔEV ”で表示されます。その後 a) のアベレージ（平均値）表示に戻ります。



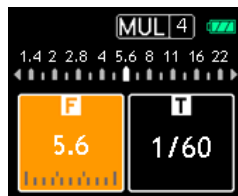
4-4 多数回フラッシュの測定（マルチモード）

この測定はフラッシュの光量が足りないとき、1回の測定からそのフラッシュを2～9回まで発光させたときのそれぞれの絞り値（F）を計算して表示します。

- ① フラッシュ光の測定を行います。【3-5 参照】
- ② MULTI ボタン⑦を押すと、押している間、“MUL2”の表示とともに2回フラッシュしたときの絞り値（F）が表示されます。【写真 7 参照】
- ③ さらに MULTI ボタン⑦を押しながら十字キー⑫の上ボタン（△）を一回押す毎に、3、4、…9回発光したときの絞り値（F）及び発光回数が表示され【写真 8 参照】、十字キー⑫の下ボタン（▽）を押す毎に発光回数は減少していきます。MULTI ボタン⑦を離した時の、発光回数がメモリーされます。



【写真 7】
発光回数 2 回のときの
絞り値(F) 表示



【写真 8】
発光回数 4 回のときの
絞り値(F) 表示

* 発光ごとの光量が安定している場合に、正しい絞り値（F）が計算されます。
* 発光回数をセットして電源をオフにすると、Auto Power Off や電池交換の場合は、セットした発光回数はメモリーされていますが、電源ボタン③を押して電源をオフにした場合は、メモリーされた発光回数はクリアされます。
* 発光回数をセットしたまま測定しても、一回発光したときの絞り値（F）が表示されます。マルチボタン⑦を押すとセットした発光回数及びそのときの絞り値（F）が表示されます。

5. 主な仕様

型 式	定常光・フラッシュ光兼用露出計	
受 光 方 式	入射光式、及び反射光式	
受 光 素 子	シリコンフォトダイオード	
受 光 部	入射光式:	白色受光球
	反射光式:	受光角約30°
測 定 モ ー ド	定常光:	シャッター速度(T)優先モード、絞り値(F)優先モード、EVモード、Auto ISOモード
	フラッシュ光:	シャッター速度(T)優先モード、閃光時間測定モード
測 定 範 囲	定常光:	入射光式: EV0～EV19.9 (0.1ステップ)
	(ISO100の場合)	反射光式: EV0～EV19.9 (0.1ステップ)
	フラッシュ光:	入射光式: F1.4～F90+0.9段 (0.1ステップ)
		反射光式: F1.4～F90+0.9段 (0.1ステップ)
	閃光時間(T0.5):	1/100～1/9000 (1/100～:1/100ステップ、1/1000～:1/200ステップ、1/3000～:1/500ステップ、1/5000～:1/1000ステップ)
繰 返 し 精 度	±0.1EV	
校 正 定 数	入射光:	C=340
	反射光:	K=14
表 示 部	2.4インチTFT-LCD Color Graphic Display	
表 示 範 囲	ISOフィルム感度	50～32000 (1/3ステップ)
	シャッター速度 (T):	定常光: 60秒～1/8000秒 (特殊中間シャッター速度: 1/25, 1/50, 1/75, 1/200, 1/400秒)
		フラッシュ光: 60秒～1/1000秒 (特殊中間シャッター速度: 1/25, 1/50, 1/75, 1/80, 1/90, 1/100, 1/200, 1/400秒)
	絞り値 (F):	0.5～90+0.9段 (0.1ステップ)
	EV値:	－1.9～29.2 (0.1ステップ)
	マルチフラッシュ:	発光回数2～9回
	分光比率 (FR):	1～100% (1%毎)
	測光範囲外表示:	Eu (エラーアンダー)、Eo (エラーオーバー)
	エラー表示:	Err: フラッシュ待機時間オーバー, 1/100 (赤); 閃光光量アンダー, 1/9000 (赤); 閃光光量オーバー
	指示補正 (PL):	－0.9～+0.9 (0.1ステップ)
	バッテリー残量:	4段階
そ の 他 の 機 能	メモリー機能 (3回)	
	アベレージ演算機能	
	モニター機能	
	多数回フラッシュの測定 (マルチモード)	
	オートパワーオフ設定:	60秒・90秒・120秒・300秒
	オートスクリーンオフ設定:	10秒・30秒・60秒・90秒・120秒
	フラッシュ待機時間設定:	30秒・60秒・120秒
	画面明るさ設定:	－5～+5 (1ステップ)
使 用 電 池	単三型乾電池 2本 (アルカリ、マンガン、リチウム、ニッケル水素のいずれか)	
寸 法	約 65 (幅) x 159 (高さ) x 24.5 (厚さ) mm (※突起部を除く)	
質 量	約100g (電池含まず)	
標 準 付 属 品	ナイロン保護ケース、ナイロンネックストラップ、クイックマニュアル、電池	

*ここに記載の性能及び製品の外観は、都合により予告なく変更することがあります。

6. 取り扱い上の注意

1. 製品を落としたり、製品に振動・衝撃を与えないで下さい。
2. 長時間使用しないときは、電池を外し、塵埃の少ない、高温多湿でない場所に保管してください。
3. 絶対に分解しないでください。
4. 入射受光球、反射受光部にはゴミ、埃などがつかないようにしてください。
5. 本体を清掃する際には、乾いた布で拭いてください。なお、ベンジン、シンナー等の揮発性薬品は使用しないでください。
6. 真夏の直射日光下、自動車の中、ストーブの近くに放置しないでください。
7. マイクロコンピュータを使用した精密電子機器です。外部ノイズ等の影響により正常に作動しないことがあります。

7. アフターサービスについて

1. 無料修理期間でも有料修理となる場合もあります。保証規定をお確かめください。
2. 保証期間経過後の修理は有料となります。また運賃諸掛かりはお客様にご負担願います。
3. 保守用部品は製造停止後、5年間を目安に保有しております。
4. 修理ご依頼時には、故障内容及びご指定修理箇所を具体的にお申し付けください。

8. 保証規定

1. 本製品が万一故障の場合は、ご購入日から満 1 年間無料修理をいたします。
2. 修理をご希望の際には、お買い上げ店が弊社にお申し付けください。なお、お買い上げ店又は弊社にご持参に際しての諸費用はお客様にご負担願います。またお買い上げ店と弊社間の運賃諸掛かりにつきましてもお客様にご負担願う場合もございます。
3. 次の場合は、上記期間内でも保証の対象となりません。
 - 1) 使用上の誤り（取扱説明書以外の誤操作）により生じた故障。
 - 2) 弊社以外で行われた修理、改造等による故障。
 - 3) 火災、天災、地変等による故障。
 - 4) 浸水、落下、塵埃等により生じた故障。
 - 5) 保管上の不備や手入れの不備等による故障。
 - 6) 保証書の添付のない場合。
 - 7) 販売店、ご購入日等の記入のない場合。
4. 電池、ケース、ストラップ等に起因する故障や損害は保証の対象になりません。
5. 本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用および撮影により得るべかりし利益の損失等）については保証いたしかねます。
6. 保証書の再発行はいたしません。
7. 保証書は日本国内にて有効です。